

最後まで忘れないでね！フィラリア症予防薬！！

フィラリア症予防薬は駆虫薬のため、蚊がいなくなった後に1回投薬が必要です。このあたりでは、11月中旬まで蚊が見られ、吸血が行われるというデータが数年前に出ています。11月中旬以降に1回投薬してください。

注意！現在、フィラリアが寄生し治療を行っているワンちゃんは、冬の間も投薬が必要です。忘れずにね。治療についてご不明の点がありましたら、スタッフにお尋ねください。

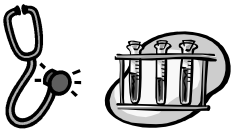
～避妊・去勢手術を考える～

避妊手術、去勢手術について皆さんはどう思われますか？『かわいそう』や『自然のままが良い』とか『手術すると寿命が短くなる』などと思ってませんか？確かに何も問題がなければ手術はするよりしないほうが、犬や猫の身体に負担をかけたり、飼主さんに経済的負担をかけることもないので良いかもしれません。しかし、人間社会の中で犬や猫が人間と共存していく上では、様々な問題回避のため必要な事かもしれません。

今は世界的に、手術をするデメリットよりもメリットのほうがはるかに大きいと考えられています。(アメリカではほとんどの犬や猫が避妊手術・去勢手術を受けます。)一般的には、無秩序な繁殖をなくし望まれない命を作り出さずにすむ事が大きなメリットです。福岡県では犬猫の殺処分頭数が年間3万頭に及んでおり、5年連続全国ワースト1なのです。ご存知でしたか？これは悲しい事です。この他、手術をする事で多くの病気を未然に防いだり、性本能と関係のある問題行動も、その発生をかなり予防する事が出来ます。また、手術をする事で性的なストレスが軽減され寿命が延びるという報告もあります。まだまだ、他にもありますがここには全てを書けませんので、興味のある方は当院のスタッフにお尋ねください。ここで問題になってくるのは『手術はいつしたらいいの？』と言う事です。今までは『生後6ヶ月齢以上の健康な犬猫で、雌犬の場合は、生理中と生理後2ヶ月間を除く』と言うのが一般的でした。しかし、最近になり福岡

県獣医師会のガイドラインが発表され、『生後4ヶ月齢以上の…』に訂正されました。これを受けて当院でも生後4ヶ月齢以上の犬猫であればお受けできるようになりました。ただ、早期に手術を受ける事によるデメリットもありますので、希望される飼主さんとのご相談の上、デメリットを上回るメリットがあると考えられる場合は、生後4ヶ月齢での手術をお受けいたします。今、アメリカでは動物保護施設において、もっと早い生後2～3ヶ月齢での手術が行われています。そこから里親に出される全ての犬猫に避妊・去勢手術を行うためです。2～3ヶ月齢での手術が良いのか悪いのかは分かりませんが、このことにより無秩序な繁殖を無くす事が出来るのです。これは大きなメリットであり、早期に手術をするというデメリットより、はるかに大きいと考えられます。望まれない命を作り出さない、動物の命も人間と同じであると言う事を、これからの日本でもすべての人が考えていかなければならないのではないのでしょうか。また、日本では簡単に「この子の子供が欲しい」と言われる方もいらっしゃいます。子供を生ませる事は悪い事ではないのですが、生ませるにはたくさんの勉強が必要です。特に小型犬は難産が予測されます。母体の命が危険にさらされる事もあります。お産は通常自宅で飼主さんが付き添い行います。ちゃんと助産は出来ますか？その後の保育は？親が世話をしてくれるとは限りません。また、たくさん生まれてくる全ての子供が五体満足ではないかもしれません。そんな時あなたはどうしますか？やはりよく考え安易な繁殖は慎むべきだと思います。

受付にある『CAPP募金箱』、皆さんのおかげで、もうすぐ一杯になろうとしています。いつもありがたく思っています。募金箱には『CAPP(人と動物のふれあい)活動を推進するために活用させていただきます』と記載があります。…と言われてもピンとこないのが実情ですよ…？皆さんにも知って頂ければもっと身近なものになるのかなぁと感じ<CAPP活動と募金の活用法>を簡単にですがご紹介したいと思います。CAPP活動とは人と動物との絆を大切に活動です。その一環として、JAHA会員の獣医師とボランティアが健康で正しくつけられた動物たちと共に各福祉施設を訪問してふれあいの場を設け、お年寄りや子供たち、心身に障害のある方々に精神的な潤いとリハビリテーションの手助けなどを行います。その活動のために募金は活用されています。例えば活動の保険(状況にもよりますがボランティア中の怪我、活動施設の物の破損など)、活動に必要な物の購入、勉強会の開催、他 あくまでボランティアなので訪問先に行く交通費は自費となります。まだまだ身近に感じる事が少なく実感を得るのは難しいようですが、この活動が何らかの効果を生んでいる事は間違いのないようです。活動効果や風景はJAHAのホームページでも紹介されています。また、JAHAという団体以外にも“ふれあい活動”を行っている方達が全国にはいらっしゃいます。皆さん資金不足ゆえ頻りに活動が出来ない、周りの理解不足のため受け入れてくれる施設が少ない等の問題を抱えているようです。一人でも多くの理解と協力により、この活動が広がり、福祉施設に入所している方達が健康で豊かな生活をおくれるようになると良いですね。



血液検査シリーズ 赤血球

赤血球とは

赤血球は肺で酸素と結合し、体内の各組織へ酸素を運搬するのが主な役目とする細胞です。犬や猫などの哺乳動物の赤血球は、核というものがなく、両面がくぼんだ円板型をしています。また、赤血球には弾力性があるため、毛細血管のように細かいところを通り抜ける時には細長く変形できます。赤血球は単純な構造で、細胞膜とそれに包まれた細胞質からなり、細胞質内に含まれるヘモグロビン(血色素:酸素と結合する能力を持った鉄を含む色素蛋白)が赤く見えるため、赤血球と呼ばれます。

赤血球が上昇する疾患

赤血球が上昇する疾患はあまり多くありませんが、その

中でもよく見られる疾患の1つに、猫の心筋症があります。その他、骨髄腫瘍、腎腫瘍、心疾患、呼吸器疾患などがありますが、病気そのものの症状以外には赤血球数の上昇による症状はほとんどありません。

赤血球数が低下する疾患

赤血球数の低下(貧血)は数多くの疾患でおこります。主なものとしては出血(大量出血や継続的な出血)、中毒(タマネギやアスピリンなどの薬物)自己免疫性溶血性貧血、腎疾患、鉄欠乏、ビタミン欠乏、骨髄疾患、感染症、慢性炎症、子宮蓄膿症などがあります。これらの疾患における赤血球数の低下の原因としては喪失・産生の低下・破壊(溶血)に分類されます。

今回は赤血球について書きましたが、赤血球数以外にもその形状や大きさも変化するため赤血球のみの検査では疾患の特定は出来ません。そのため、その他の検査結果と総合的に判断する必要があります。

わんこ・にゃんこ日記

僕の名前は「セルシオ」。1月23日で5歳になるんだ。7歳になるゼファーおじちゃんと一緒に櫻井家に飼われているんだ。おじちゃんと同じで僕も去勢手術ってやつをしたんだよ。寝てたからよく覚えてないんだけどね。ゼファーおじちゃんはよく紹介されるけど、僕は一度もなかったから、今回は僕の事も皆に知ってもらいたいと思う。僕はすごくお利口さんなんだよ。おじちゃんは悪い事ばかりするんだ。けど、飼主は「セルはお利口さんのふりして、こそ〜っと悪さするもんね」だって。どういう事??おじちゃんは、すぐつまみ食いしようとして怒られるんだ。だから僕は絶対にしないよ。ねっ!お利口さんでしょ?おじちゃんのほうが悪い子だよな?みんな居なくなってから食べればいいのに、待てないんだもん。僕はちゃんとみんなが居なくなるまで我慢して、それから食べるのに。どうして飼主は僕の事を悪い子っていうんだらう?わけわかんないっ。みんなはどう思う?僕の事を悪く言うけど、僕の飼主もダメダメ!朝がなかなか起きないんだ。僕が「起きようよ〜」って言っても全然ダメだから僕も考えたよ。つむじをナメナメ、頭をガリガリ・・・最初はこれで起きてただけで、頭を布団で隠すようになったんだ。チクショ〜っと思って下を見たら、足が出てたんだ(^)vすかさず足の裏をなめたらガバツて飛び起きたんだ。僕は毎朝、頭と足の裏のナメナメ・ガリガリを飼主が起きるまで繰り返しているんだよ。ほんと世話がやける飼主なんだ(--;)今日は何往復したかな・・・ねっ!僕ってお利口さんでしょ?もっと僕のことを知ってもらいたいんだけど、今回はこれくらいにしとくね。お利口さんのセルを覚えてね!



By : 櫻井セルシオ

季節の管理

寒い冬、つい手抜き散歩になったりしていませんか?秋~冬は寒さに強い身体にするために脂肪がつきやすい時期です。十分な運動をせず、食べてはゴロン~、食べてはゴロン~...を繰り返していると、あっという間に体重が増え、気がつけば肥満犬、肥満猫になってしまいます。コロコロとしたワンちゃん・ネコちゃんはぬいぐるみのようにかわいく見えるため、肥満が身体にとっても悪いという事をつい忘れがちです。中には「うちの子太ってるでしょう! (^o^)」と、うれしそうにお話される方もいらっしゃいます。人間もそうですが、肥満は決して良いものではないですよ!

- * 重たい身体を支えるため関節や脊椎・靭帯などに負担がかかり、関節疾患や脊椎疾患の発生が多くなります。
- * 呼吸器や循環器への負担が大きいため、鼻気管や肺、心臓の病気の引きがねになります。
- * 手術や全身麻酔のリスクが高まります。
- * 肝臓病・糖尿病・急性膵炎などになりやすい。
- * 免疫の低下を起こしやすく細菌やウイルスに弱くなり、泌尿器疾患や皮膚疾患、様々な感染症などを起こしやすくなります。
- * 避妊していないメスの場合、生理不順・難産を引き起こす危険性が高くなります。

病気になってからではたいへん!! それでは肥満にさせないためにはどうしたらよいのでしょうか?

それは、適切な運動と食事管理です。「寒いから少しだけね...」と手を抜かず、十分なお散歩をしてあげましょう。ネコちゃんは、おもちゃ等でたくさん遊んであげましょう。そして、高脂肪・高カロリーのご褒美はひかえめに。(回数は減らす必要はありませんが1回量は減らしましょう。)バランスの取れた、自分の犬猫に合ったフードを与えましょう。人間の食べるものをつい...あげたくなる気持ちはわかりますがやめましょう。私達にとってほんの一口でも、小さな犬・猫にとっては大きな大きなご馳走になるのです。小型犬や猫は私達の約10分の1の大きさしかない事を忘れずに!定期的に体重測定をしたり、身体を触り太り具合をチェックしてみよう。

肋骨が確認できない。 お腹が垂れている。
腰にくびれがない、または左右に膨らんでいる。
動きが鈍い。

など、当てはまるものがあれば要注意ですよ!